

知事記者会見の概要

日 時：令和6年3月21日(木) 10:02～10:19

場 所：502会議室

出席記者：9名、テレビカメラ4台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

(1) 令和6年度人事異動及び組織機構の改正について

フリー質問

(1) 発表事項に関連して

<幹事社：朝日・荘日・NHK>

☆報告事項

知事

皆さんおはようございます。今日はちょっと風邪気味なので、マスクをしたままで説明をさせていただきますと思います。

令和 6 年度の人事異動と組織機構の改正について申し上げます。A4 版の資料をご覧になってください。

「令和 6 年度県政運営の基本的考え方」に示した「県民の安全・安心な暮らしの確保」「県民一人ひとりの希望の実現・総活躍の促進」、「産業・企業の活性化と未来を見据えた成長力の強化」、「地域に活力をもたらす国内外との交流の拡大」この 4 つの視点に基づき、未来を見据え、安全・安心を土台に県民誰もが個性や能力を発揮でき、将来にわたって地域の活力が持続する県づくりを力強く推進していくため、令和 6 年 4 月 1 日付けで人事異動及び組織機構の改正を行うこととし、本日、人事異動の内示を行ったところです。

まず、人事異動についてであります。人事異動の基本方針」としましては、次の 4 点に留意をいたしました。

1 点目は、適材適所の人事配置であります。適材適所の原則に立ち、意欲的で創造力に富む人材の積極的な登用を行っております。

2 点目は、女性職員の積極的な登用と活躍の場の拡大に配慮した人事配置であります。「女性職員の登用状況」につきましては、配布資料の 4 ページの下段の表をご覧ください。この A4 版の 4 ページ、裏表紙といったところでしょうか、

部長級につきましては、知事部局で 4 名の女性職員を、「しあわせ子育て応援部長」、「農林水産部長」、「会計管理者」、「置賜総合支庁長」に登用いたします。この結果、部長級に占める女性職員の割合は 23.5% となり、人数・割合ともに過去最高となります。

なお、女性職員が「農林水産部長」になるのは初めてのことです。また、人事委員会事務局長に女性が登用されますので、全任命ベースではこちらも過去最高の 5 名となります。

次長級につきましては、今年度の 8 名から 2 名増えまして、知事部局で 10 名の女性職員に登用いたします。この結果、次長級に占める女性職員の割合が 20.8% となり、こちらも人数・割合ともに過去最高であります。

部長級と次長級をあわせた人数は、知事部局で過去最高の 14 名、次長級以上に占める女性職員の割合も、過去最高の 21.5% となります。

課長級につきましては、「健康福祉企画課長」や「産業創造振興課長」に初めて女性職員を起用するなど、積極的に女性職員に登用した結果、過去最高の 80 名、前年比で 7 名増です。課長級に占める女性職員の割合も、過去最高の 22.1% となります。

以上によりまして、令和 6 年度の知事部局の女性管理職の数は 94 名、管理職に占める女性職員の割合は 22.0% となり、人数・割合ともに過去最高となります。

このほか、課長補佐級以下の職員につきましても、各部門に女性職員を積極的に起用した結

果、知事部局の女性の役付職員は 799 名、役付職員に占める女性職員の割合は 29.5%となりまして、こちらも人数・割合ともに過去最高であります。

それではこの資料の1ページ目にお戻りください。

3点目は、総合支庁等出先機関と本庁との交流の推進です。

市町村や地域等現場の声を大切にする県政を展開するため、各職位において、総合支庁等出先機関と本庁との交流に努めております。

4点目は、人材育成の視点に立った交流・派遣の実施であります。

県内市町村との相互交流、省庁・民間等への派遣を引き続き行うこととしております。

それでは、次に組織機構の改正について申し上げます。お手元に配布しておりますA3版のカラーの資料をご覧ください。

まず、「部局横断的な重要課題にオール県庁で対応するための組織体制の整備」であります。

県政を取り巻く部局横断的な重要課題に対し、各部局が連携した施策を展開するとともに、総合発展計画の実施計画策定を推進するため、全庁の調整・舵取り役となる、みらい企画創造部の次長を2名体制に強化いたします。

具体的には、人手不足などの部局横断的な課題や屋内スケート施設・新しい博物館の整備といった重要プロジェクト等に関し、各部局と連携した具体的な政策検討・企画立案を実施する『重要プロジェクト等推進監』を新設するとともに、その推進監の下、各種プロジェクトを推進するため、企画調整課に『重要プロジェクト等推進主幹』を新設いたします。

また、県政課題解決の重要なツールとなるデジタル化を強力に推進しながら、実効性のある総合発展計画の実施計画策定を推進する『総合発展計画・DX推進監』を新設いたします。

次に、『県政運営の基本的考え方』に示した4つの視点に沿った組織体制の整備」であります。

まず、1つ目の視点は、青色の部分ですが、「県民の安全・安心な暮らしの確保」であります。

西村山地域の医療提供体制の再構築に向けて、新病院の整備を含めた具体的な検討を進めるため、医療政策課に『西村山医療体制企画主幹』を新設いたします。

また、医療従事者の確保や医師の働き方改革の定着・実現に向けて、地域の医療提供体制との調整を図りながら一体的な取組みを推進するため、医療政策課と地域医療支援課を統合いたします。

次に、2つ目の視点、オレンジ色の部分ではありますが、「県民一人ひとりの希望の実現・総活躍の促進」であります。

観光や地域活性化などの視点を加えた総合的なスポーツ振興施策を展開するため、教育委員会が所管している、学校体育を除くスポーツに関する業務を知事部局へ移管します。この移管にあわせ、観光文化スポーツ部に『スポーツ振興課』及び『競技力向上・アスリート育成室』を新設いたします。

また、スポーツ部門の集約に伴い、文化振興施策を一体的に所管する『県民文化芸術振興課』及び『博物館・文化財保存活用室』を新設いたします。

次に、3つ目の視点、緑色の部分であります、「産業・企業の活性化と未来を見据えた成長力の強化」であります。

県産日本酒をはじめ、県内企業による豊富な県産品の海外取引を活性化するため、『県産品・貿易振興課』を新設いたします。

また、県産農産物の更なる消費拡大を目指し、国内外への販路開拓・販売促進に向けた取組みを強化するため、『農産物販路開拓・輸出推進課』を新設いたします。

さらに、コロナ禍を経て急速に拡大する観光需要など、環境変化に的確に対応した観光誘客を進め、交流人口を拡大するため、『観光交流拡大課』を新設しますとともに、インバウンドのみならず、アウトバウンドを含めた観光施策を推進するため『国際観光推進室』、そして観光誘客につながる観光資源の掘起し・磨上げを進めるため『観光魅力創造室』をそれぞれ新設いたします。

最後に、4つ目の視点、ピンク色の部分になります、「地域に活力をもたらす国内外との交流の拡大」であります。

将来の整備費用に備えた基金造成など、トンネル整備の早期事業化に向けた取組みのほか、米坂線の復旧に向けた取組みを進めるため、総合交通政策課に『米沢トンネル(仮称)事業化・整備等推進室』を新設いたします。

また、持続可能で利便性の高い地域交通を構築するとともに、暮らしや産業を支える物流の確保に取り組むため、総合交通政策課に『地域交通・物流対策主幹』を新設いたします。

以上が令和6年度の人事異動及び組織機構の改正の概要となります。よろしくお願いたします。

私からは以上です。

☆フリー質問

記者

朝日新聞の高橋でございます。

今回の組織改編・人事異動、すべて知事の判断の下に行われているかと思うのですが、中でも知事ご自身がですね、意を用いて特に重視したポイントなどがあればお伺いしたいのですが。

知事

はい。意を用いて重視したという、目玉ということになるかと思うのですが、それはさまざまあるのですが、特にと申し上げるならばですね、やはり「みらい企画創造部」の次長2名体制にして強化するということが挙げられると思います。

各部署が連携した施策というのが多々あるわけでありますので、そういった施策をしっかりとリードしてスピーディにしっかりと進めてもらうということで「重要プロジェクト等推進監」を設けました。

それから、今、第4次山形県総合発展計画、これがですね、令和7年度から後半ということで、令和6年度にはしっかりと後半に向けてまた策定をしていくということになりますので、それと時代の大きなニーズでありますデジタル化ですね、それを進めるという大きなミッションを持って、「総合発展計画・DX推進監」、これも新設をしました。

しっかりとそれぞれの分野をですね、けん引して行ってほしいということで、2名体制にした、これはやはり大きいと思います。重要プロジェクトというのは、人手不足対策もそうですが、あらゆる分野にまたがっておりますし、それから屋内スケート施設とか新しい博物館といったこともしっかりと進めなければいけないということがあります。あと、年度途中でまた何かそういった大きなことが出てくるかもしれませんので、そういったことも視野に入れながらですね、「重要プロジェクト等推進監」にしっかりと進めてもらいたいというふうに思っています。

記者

河北新報の原口です。

今回、女性の登用が過去最高ということだと思っておりますけれども、この数字については知事はどのようなふうに受け止めていらっしゃるでしょうか。

知事

そうですね、そもそもやはり適材適所、これが第一で、それを重視しておりますが、次には女性登用ということも積極的に行ったところであります。

それで、令和7年度の25%目標というのがあったかと思うのですが、それに向けて着々と進んでいるというふうに思っています。県職員もですね、年々、従前よりは女性も増えているということもございますし、また、あらゆる政策に女性の視点もしっかり反映させていく、社会人口が男性と女性はほぼ半々というような状況であります。両方の視点をですね、反映させて、県民みんなが幸せに生きていける、そういう県づくりを進めていきたいと思っておりますので、まだまだ足りないと言えば足りないのですが、ただ、着々と目標に向けて進んでいるという状況であるというふうに認識をしております。